

学 位 論 文 要 旨

研究題目

Plasma Renin Activity variation following admission predicts patient outcome in acute decompensated heart failure with reduced and mildly reduced ejection fraction
(駆出率が低下した急性非代償性心不全入院患者において血清レニン活性の変動は患者の予後を予測する)

兵庫医科大学大学院医学研究科

医科学 専攻 器官・代謝制御 系

循環器病学 (指導教授 石原 正治)

氏 名

東 晃平

背景: 入院時の血漿レニン活性 (PRA) 値は、急性心不全 (ADHF) 患者の予後予測因子であることが報告されている。PRA は入院中に輸液量や薬剤の滴定などいくつかの要因で影響を受けるが、入院中の PRA 値の変化 (Δ PRA) が ADHF 患者の予後と関連するかどうかはほとんど不明である。

目的: 駆出率低下 (HF_rEF) および軽度駆出率低下 (HF_{mr}EF) の ADHF 患者の予後に対する Δ PRA の予測的影響を調査する。方法 ADHF で入院した HF_rEF と HF_{mr}EF の患者 116 例を連続的にレトロスペクティブに解析した。PRA 測定は入院時および退院時に実施した。主要アウトカムは、心血管死と HF 再入院の複合とした。

結果: 116 名の患者のうち、85 名が入院時と退院時の両方で PRA を測定していた。入院時と比較して、退院時の PRA 値は有意に高かった (0.8 (IQR 0.3-2.2) \rightarrow 2.8 (IQR 1.0-7.2), $p < 0.001$)。入院時の PRA 値で順位付けした 3 次群では、PRA 値が高い、中、低い順に予後不良の傾向が見られた ($p = 0.07$)。逆に退院時の PRA 値は予後を有意に区別し、高、低、中の順で予後不良であった ($p = 0.026$)。次に、 Δ PRA でランク付けした 3 次群に分けると、「最小」、「減少」、「増加」層の順に予後が悪化した。Cubic splines 解析でも同様の傾向がみられた。

結論: HF_rEF および HF_{mr}EF を有する ADHF 患者において、 Δ PRA が最小の患者は、増加または減少の患者よりも予後が良好であった。